

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月15日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4699200012
法人名	株式会社グループホーム天望台
事業所名	株式会社グループホーム天望台
所在地	鹿児島県大島郡天城町瀬滝677番地1 (電話) 0997-85-4722
自己評価作成日	令和4年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム天望台は、自然豊かな集落の中心地にあり、近くには、スーパーや郵便局、学校、福祉施設等の社会資源にも恵まれ、交通の便もよく、通りすがりの地域の方々や関係者の皆さんが気軽に立ち寄っていただけの施設で、施設の中も広々と明るく、ご利用者、職員の笑い声が絶えない施設です。

・当施設では「①その人を受け入れ尊重します。②ゆっくり、一緒に楽しみながら穏やかに暮らしていくことを支えます。③地域の方達と常に交流を持ち、行事に参加したり、積極的に外部に出かけ地域の一員として暮らします。」を理念に掲げ、地域の行事やドライブなど積極的に参加しご利用者様からは、「よかった、楽しかった、ありがとうね。」と言葉が聞かれます。玄関ホールのソファでは、ご利用者やご家族、来園者の語らいの場になっています。玄関には、思い出療法の一つとして昔懐かしい生活用品「白・壺」を置き何かを思い出すきっかけにしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、集落の中心地に位置し、利便性が良く、コロナ禍以前は、知人や友人も訪ねてきて、地域の方々とも親しく交流している。

・地域との交流や行事への参加については自粛しているが、利用者の楽しむことを色々と工夫して笑顔の出るような支援に努めている。

・職員の勤続年数が長く職員間のコミュニケーションも良い。管理者は職員の要望や意見に耳を傾け、すぐに解決できることはその時々で解決している。職員の協力で「外出時は全員で」を念頭に於いたケアに取り組んでいる。

・玄関口の広さを利用して白や壺を置き、思い出療法を取り入れている。利用者や事業所を訪問された人が昔を懐かしく思い、楽しい気持ちになれるようにコーナーを工夫している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝ご利用者と職員で理念の唱和を行い理念に沿ったケアに取り組んでいる。	理念はホールやトイレ等に掲示しパンフレットにも掲載している。毎朝利用者も一緒に全職員で唱和している。職員会議やミーティングなどで理念をテーマにして話し合い、意識を高めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、防災訓練や敬老会に参加し、婦人会や外部からの来訪者と交流している。	地域の行事はコロナ感染症拡大により自粛している。町主催のミニサロンへ週1回参加して、筋力運動、背筋運動、脳トレーニングなど行っている。利用者も数人ずつ参加している。地域の馴染みの人から野菜の差し入れ等がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	年6回運営推進会議を開催し、月ごとの活動報告やご利用者様の現状、役員との利用者様との交流の機会を設けている。また、地域の情報や役場の意見等をサービスの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自施設で解決できない問題は役場に相談している。役場の担当者も2ヵ月に1回運営推進会議に参加して情報の提供等、協力してもらっている。</p>	<p>会議は2ヶ月毎に開催しているが、コロナ感染状況に応じて書面で開催したりしている。活動報告やコロナ対策等の資料を送付して意見を聞き、意見は運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>自施設で解決できない問題は役場に相談している。役場の担当者も2ヵ月に1回運営推進会議に参加してもらっている。</p>	<p>提出書類があったり、相談ごとがある時は窓口へ出向いてアドバイスを得ている。行政主催の研修会はリモートで参加している。運営推進会議は役場の担当者から情報や意見を得て、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体の危険等、緊急性以外は見守り強化、職員間の声掛けや情報共有を図り、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年4回勉強会を実施している。職員会議の中でも拘束についての勉強をしている。スピーチロック等の命令的な言葉は注意されている。言葉遣いで不穏状況になる可能性があるので重視して原因を追究したり反省している。日中は玄関の施錠はしていない。外出希望者は一緒に外に出て外気浴をしたり、話を傾聴したりして落ち着くまで散歩をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>アンケートを作成し、虐待防止について注意をはらっている。自己評価も行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>資料を用いた研修を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容について、具体的に説明をしている。退所についても、家族ときちんと話合っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ケアマネ兼管理者を苦情相談窓口とし、なにかあった時はすぐに運営者に相談し、内容によっては職員全体で話し合い、対処している。また、口では言いづらい事もあると考え、「意見箱」を設置している。</p>	<p>利用者からは日々の生活の中で思いを聞いている。家族は面会時に話を聞いている。面会は携帯を使ってリモートでの面会を実施している。意見箱の設置もしている。入れ歯洗浄剤の購入や食事形態についての希望があり対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月給料日を職員会議の日と定め、気付いた事や色々な案を出し合ったりしている。</p>	<p>毎月の職員会議で、年1回だけ用紙に要望や意見を記入し提出している。自分の日頃言えないことや気づいたこと、思いなどを話し合っている。ケアについての意見が多く、オムツ外しをしたい利用者が職員の提案によりトイレ排泄ができるようになった事例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>働く喜びを感じられるように常に考え、職員自身の健康が利用者様に深く関係することを話し合い給料も安定させて、不安のない家庭生活ができ楽しい職場作りを目指している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人間形式が非常に大切であり、生涯学習を基本として人づくりを考えている。研修があれば必ず誰かが行くように、町内町外になるべく全員で参加する努力を重ねている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ケアマネは、他のグループホームのケアマネと連絡を取り合い勉強会をしたり、ケアマネ協議会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所者予定になった際は、必ず連絡を入れ面接をするようにしている。できることなら、見学に来ていただきゆっくりと話をするように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所申込書を取りに見えた時点で、ゆっくり話を聞くように努めている。遠方からの場合も電話で話を聞き、ファックスや郵送で申込書を送ったりして少しでも安心して申込ができる様配慮している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護認定を受けていない場合は、市町村に相談して、まずは介護認定を受ける事を勧めたり、早急に入所が必要な場合は他の施設にも申込をすることを勧めたりしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物をたたんでもらったり、ジャガイモやニンジン・玉ねぎの皮をむいてもらったりしている。お茶葉をパックに入れてもらったり、職員よりも上手な事は任せたり、教えてもらいながらしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者が精神的に落ち着きがなくなったり、体調を崩したりした時は必ず家族に連絡を取り、一緒に問題解決に向けて悩んだり、ホッとしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけるのを手伝ったり、出かけたついでに馴染みの場所へ行ったり、近所の方と会えば話をする機会を設けている。	自宅周辺へドライブして、親戚や知人と話をしている。職員同行で買い物をしたり、家族からの要望で外出をしている。携帯電話で家族と交信して楽しんでいる。馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	玄関前ソファや椅子に座って県道を歩いている方達を見ながら話しがはずみ、お互いの昔話に夢中になってこのホームは場所がいいと満足している。様子を見ながら食堂に座る位置を替えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、家族の方が遊びに来てくれたり、外で家族の方と会ったら必ず声をかけて近況を話したりしている。また、退所した方のお葬式には花を届けたり、運営者とケアマネが参列している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向を尊重し施設でも本人らしく、今までの生活が出来る様に支援している。	居室でゆっくりしている時やホールでくつろいでいる時・入浴時等に聞き取りをしている。困難な場合は、仕草や行動・表情などから把握したり、家族に相談している。テレビを部屋で見たい、お菓子を食いたい等の相談もあり家族と話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からだけでなく、家族や入所前に利用していた事業所のケアマネと連絡を取ったり、馴染みの方と話したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族等とも話をしている。また、スタッフ間でも気づいた事は情報を共有し合えるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の朝礼や月1回の勉強会、研修会を行ったり、本人、家族、医療との連携をとり介護計画を作成している。	本人や家族の思いを聞き、主治医からの意見を参考に担当者会議をして介護計画を作成している。モニタリングは1ヶ月、3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。急変時も見直しをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日各勤務ごとに記入し、情報を共有、活用できる様に努めている。個々の情報がわかりやすいように、必要に応じてその人に合った個別記録用紙を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には家族が支援される一方になってしまわないようにと考え、受診等は家族に任せる様にしているが、その時の状況に応じて柔軟に対応している。また、家族が遠方の場合、自宅の様子を見に行ったり、通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	9月の敬老の日には、集落の敬老会に参加したり、協力員・役場・運営推進役員などの協力を得て、交流会を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、入所前からの係りつけ医に診てもらえるようにしている。係りつけ医に対して不安がある時は、家族と話す機会を設け、安心してもらえるようにしている。往診がない医療機関が係りつけ医の時は、受診援助をしている。	入所前の医療機関が主治医になっている場合が多い。往診が月1回あり、看護師の訪問が週1回ある。夜間時の対応も出来ている。往診のない医療機関や他科受診の場合は職員が同行し、受診の結果を家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時に看護師と話したり、必要な時は往診以外も電話で相談したりしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や、病院の事務や看護師だけでなく、医師やソーシャルワーカーとも連絡を取って対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時にご家族と重度化に向けての施設の方針を話し合い、終末期に向けては、ご本人、ご家族の意向に尊重し、医師、関係者と共に支援を行っている。</p>	<p>契約時に説明をして早い段階から終末期の話をしている。指針があり、マニュアルもある。今までも見取りを行っている。今後も関係者の体制ができれば行うようにしている。病状に応じて主治医と家族は面談をして家族の意向を聞いている。看取りの時は家族へ同意書を書いてもらっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>係りは、ご利用者の病歴や既往歴などの情報を提供し、職員会等で、対応の仕方を話し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>協力員の方をお願いしている。煙草を吸う職員には、特に注意して火の恐ろしさを話合っている。毎月11日にはミニ防災訓練を行っている。</p>	<p>年2回マニュアルを基に火災避難訓練を夜間を想定して実施している。消防署から指導を受けている。集落の避難場所が事業所のそばにあり、事業所の避難場所にもなっている。自主訓練で部分点検や備蓄の確認をしている。連絡網に近所の住民も入っている。備蓄は水・米・インスタント食品・缶詰・レトルト食品等を備えている。毛布やオムツ等の準備もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉かけや対応もさり気なくするように努力しており、気付いた時は職員同士でも注意し合うように心がけている。</p>	<p>マニュアルを基に、職員会議の時に尊厳等について勉強会を実施している。トイレの声掛けは小さな声で、着脱の際はバスタオルを使ったりしている。入室時には声掛けやノックをするようにしている。自己決定ができるような環境づくりや申し送り時は事務所で聞こえないように工夫している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>まずは本人の意向を聞くようにし、理解が出来ない時は、何度も説明したりして利用者からの決定をもつようにし、なるべく納得しながら生活ができる様に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩等、出来るだけその人に合わせて出かける援助をしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>運営者が美容師の資格があるので、散髪している。家族の依頼がある時は、職員が美容院に連れて行ったり、洗顔や衣服の調整等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事準備の際は、一緒に野菜の皮むきをしてもらったり、配膳等やお膳拭きを交代で手伝ってもらっている。</p>	<p>食事は職員が調理し、個々の食事形態に配慮している。事業所で収穫した野菜も食材としている。行事食は外部へ依頼している。誕生日は利用者に好みのものを聞き、ケーキもおいしく食べている。利用者は、下ごしらえ・配膳・台ふき・野菜の皮むき等を一緒にしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>お茶・牛乳・ミキ・ヤクルトなど、利用者が欲しい時は、お茶時間以外にも摂取している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入れ歯の方や歯がない方が多い為、1日3回、食事の後はお茶でうがいをしてもらったり、できる方は洗面所で歯磨きをして頂いている。介助が必要な方は職員が見守り、コップに義歯を入れてポリデント等介助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>2時間おきに職員がトイレ誘導し、リハビリパンツなどの使用をなるべくしないように心がけている。食堂には、排泄チェック表をおいて、記録し健康管理に努めている。</p>	<p>排泄の自立に向けて排泄記録を把握し、動作などから早めの声かけをしてトイレ誘導している。職員が同行していたが、自力で行けるようになった事例や2時間ごとにトイレへ声掛けや誘導した結果、おむつを汚す量が減り、おむつ代が軽減された事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や牛乳・ヨーグルト・食事等、おもに野菜の摂取を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	夏場は週に3回。冬場は週に2回風呂に湯を張り、浸かりたい方はゆっくりと浸かってもらっている。入浴剤も使用しています。スタッフの都合がいい時は、決めた曜日以外にもその人の都合に合わせています。	入浴は、冬場は2回、夏場は3回実施している。シャワー浴や浴槽に入る入浴等、本人の希望に応じている。拒否者は時間を変えたり、日にちを変えたりして無理強いはしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後も明かりがあった方がよいという人に対しては、つけたままにしたり、冷暖房も本人の好みを優先して調整し、快適に過ごせるようにしている。シーツも汚れてないかチェックし、清潔にできる様心がけている。又、寝つけない方にはカセットで歌を聞かせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服の内容を一目見てわかるようにファイルに綴っている。疑問に思った事はスタッフ同士で声を掛け合い確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「いつも〇〇さんが洗濯物をたたんでくれて、助かります」とか、一緒に家事をしてくれて「いつもありがとうございます」と言ったりして、本人の意欲と張り合いに繋げる様になっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員の用事で出かける時に一緒にドライブしたり、園庭でお茶をしながら草花を見たり、月1回はドライブをしながらお食事処での昼食を楽しんでいます。食堂のオーナーにお願いをしてご利用者が食事しやすいように食事形態を考えてもらっている。	年間計画を作成して、初詣には全員ででかけている。自宅等の馴染みの場所へドライブで数名で出かけたり、おやつ等の買い物や事業所周辺のドライブに出かけている。畑作業の好きな利用者は事業所の菜園に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度所持してもらっている。飲み物やお菓子等買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から、手紙が来たり電話がかかってきたりする。本人が依頼するときは、家族に電話をかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に家族からの贈り物の花や、季節の花を飾ったり、写真を貼ったりしている。	玄関は広く、リビングは業務用のオゾン空気清浄機や加湿器・消毒器がある。換気を定期的に行い感染予防をしている。大型テレビやソファを置き、季節の花を置いたり、昔懐かしい飾り物を置いたりして来られる人を楽しませている。壁には季節ごとの作品や行事参加の時の写真等を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前や廊下・居室前にソファを置き、数名でおしゃべりが出来る場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には押し入れとベッドが備えられ、部屋の外には濡れ縁がついている。それぞれがタンスなどを持ち込んでいる。お孫さんからの贈り物を飾ったり、自分達で色塗りしたものを飾ったり居心地よい部屋の工夫がされている。	ベッド・エアコン・押し入れ等の設置がある。馴染みの家具やテレビ・テーブル・椅子・家族の写真・ぬいぐるみ・週刊誌・寝具等の持ち込みがあり、居心地よく過ごせる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は全体的に手すりを設置し、なるべく自力で方向が維持できるようにしている。風呂場の浴室や浴槽に手すりを設置し、トイレ内も手すりを設置している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない